

江別第一中学校 学校だより

純誠



教育目標

- ・自ら進んで学び未来を創造する生徒
- ・豊かな心を持ち互いに協力して生活を高める生徒
- ・強い意志と体力を持ち、進んで努力する生徒

令和7年12月25日 第11号

令和7年度 「全国学力・学習状況調査」結果概要について

年の瀬も押し迫り、寒さが厳しくなってきましたが、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご支援・ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」が4月17日（木）に実施（理科は15日（火）にオンラインで実施）され、過日、結果の個人票を配布いたしました。以下に、学校全体の結果や生徒の傾向、概要を示します。

国語 ○全国平均と比べ、「同様」です。

内容別正答率	成果と課題
<p>(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項</p> <p>● 貴校 --- 北海道（公立） ... 全国（公立）</p> <p>100.0 80.0 60.0 40.0 20.0 0.0</p> <p>読むこと</p> <p>書くこと</p> <p>話すこと・聞くこと</p>	<ul style="list-style-type: none">・正答率が高い問題 「文脈に即して漢字を正しく使うことができる」かどうかをみる設問や、「書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開をすることができる」かどうかをみる設問は、よくできていました。・正答率が低い問題 「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる」かどうかをみる設問や、「事象や行為を表す語彙について理解している」かどうかをみる設問に課題が見られました。

○正答率が高い問題

<p>第一中学校 美術展</p> <p>毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。</p> <p>私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれもかいしんの出来です。</p> <p>今年は、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。</p> <p>体験コーナーでは、中学生と一緒に、好きな色のタイルを貼って自分だけのペンギンを作ることができます。</p>	<p>— 中井さんは、【ちらし】の——線部「かいしん」を漢字に変換しようとしています。漢字に変換したものとして最も適切なものを、次の1から3までの中から1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none">1 会心2 改心3 改新
--	---

○正答率が低い問題

<p>【工夫】</p> <p>A 作品に込めた思いや作品をつくる過程について、中学生が、来場者の求めに応じて説明する。</p> <p>B 昨年はおみやげにしていたペン立てを、今年は体験コーナーを設けて、小学生につくってもらう。中学生は、美術の時間に学んだことを生かし、手助けや助言をする。</p>	<p>【感想の一部】</p> <p>ア どうやってあんなすばらしい作品をつくったのかわりなくなりました。美術でどんなことを学べるのが楽しみです。</p> <p>イ いろいろな作品が展示されていて楽しかったです。思いのこもった作品が多いように感じました。</p> <p>ウ おみやげにペン立てをもらえてよかったです。手づくりだと聞いてびっくりしました。私もつくってみたいです。</p>
<p>[条件] 【工夫】 A、B をどちらか選び、それと結びつく【感想の一部】選んで、小学校6年生へ伝える文を書く。</p>	

○国語における今後の指導や改善策

文章を書く際に、根拠を明確に示す指導を強化し、理由付けの型を用いて考えを筋道立てて表現できるようにしていきます。また、事象や行為を表す語彙については、分類したり実際の文で使ったりする活動を取り入れ、語彙の確実な定着を図ります。

数学 ○全国平均と比べ、「同様」です。

内容別正答率	成果と課題
<p>内容別正答率のレーダーチャート。縦軸は正答率（0.0から100.0）。横軸は4つの項目：A 数と式、B 図形、C 関数、D データの活用。3つのデータ系列：貴校（赤い実線）、北海道（公立）（青い点線）、全国（公立）（黒い点線）。貴校の正答率は、数と式（約60%）、図形（約40%）、関数（約20%）、データの活用（約40%）で、北海道と全国平均と比べて概ね低い傾向が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 正答率が高い問題 「数量を文字を用いた式で表すことができる」かどうかをみる設問や、「事象に即してグラフから必要な情報を読み取ることができる」かどうかをみる設問は、よくできていました。 正答率が低い問題 「多角形の外角の意味を理解しているか」かどうかをみる設問や、「証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たにわかる辺や角についての関係を見い出すことができる」かどうかをみる設問に課題が見られました。

○正答率が高い問題

<p>設問 2</p> <p>② オレンジの果汁が40 %含まれている飲み物があります。この飲み物 a mL にオレンジの果汁は何 mL 入っていますか。a を用いた式で表しなさい。</p>

○正答率が低い問題

<p>設問 3</p> <p>③ 下の図の△ABCで、頂点Aにおける外角の大きさを求めなさい。</p>

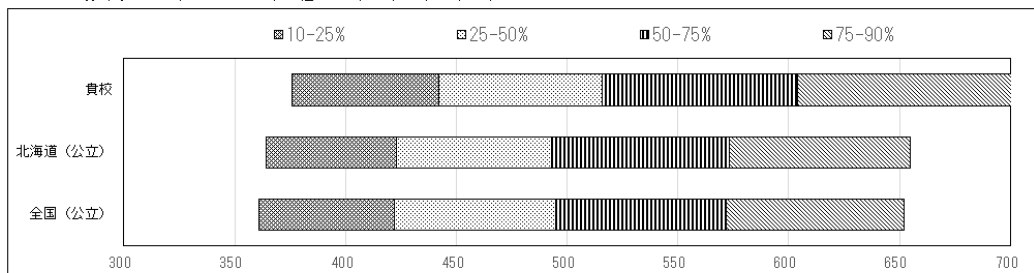
○数学における今後の指導や改善策

多角形の外角の意味を図や操作活動を通して確実に理解させるとともに、証明問題では証明後にどの関係が新たに導けるかを整理する練習を取り入れて、論理的に考える力を育てていきます。また、根拠となる性質を選び取る活動を重ねることで、証明を活用する力の定着を図ります。

理科 ○全国平均と比べ、「上回って」います。

(比較の仕方が国語・数学とは異なっています)

IRTスコア分布グラフ (パーセンタイル値: 10%, 25%, 50%, 75%, 90%)



- ・ I R Tスコア: IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの
- ・ パーセンタイル: データ全体を小さい順に並べたときに、ある値が下から数えて何%の位置に相当するかを表す数値

・ 正答率が高い問題 【設問 1 (5)】

水道水について調べる

顕微鏡で観察した結果から、地層からしみ出した水にいろいろな生物がいたので、このままでは安全に飲めないことが分かりました。

地層からしみ出した水などを安全な水道水にするため、ろ過したり、塩素を含む薬品を加えたりしています。

水道水を顕微鏡で観察すると、図のように生物は観察されませんでした。これは、日本の水道水が安全に飲むことのできる理由の1つですね。

地層からしみ出した後
たまった水

水道水

図

「元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身につけている」かどうかをみる設問がよくできていました。

(5)

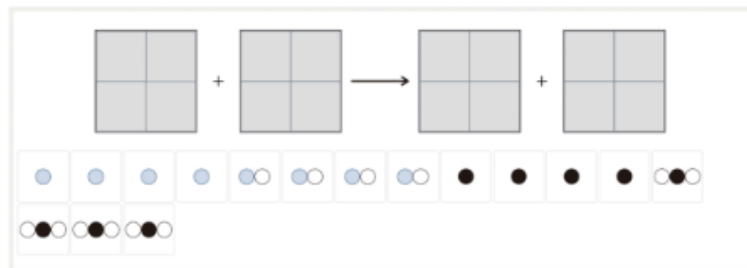
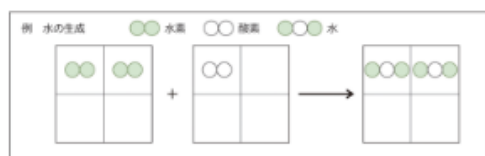
大文字、小文字を区別して、下線部の元素記号を書きなさい。

解答欄

・ 正答率が低い問題 【設問 3】

(2)

マグネシウム原子●、二酸化炭素○●、酸化マグネシウム●○、炭素●と表したとき、正確な化学変化はどのように表すことができますか。「例 水の生成」を参考にして、□にモデルを移動して、化学変化をモデルで表しなさい。
なお、使わないモデルもあります。



「実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができる」かどうかをみる設問に課題が見られました。

○理科における今後の指導や改善策

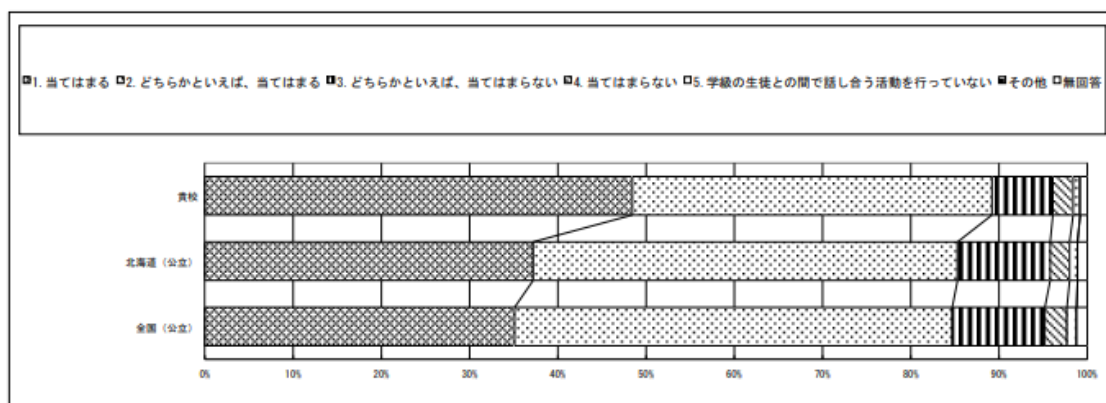
原子・分子の構造や性質を再確認する学習を取り入れて、知識の定着を図ります。またいろいろな実験を例に、「なぜそうなるのか」を言語化するトレーニングを行なっていきます。

生徒質問紙

～学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査～

○肯定的な回答が全国平均より高い項目

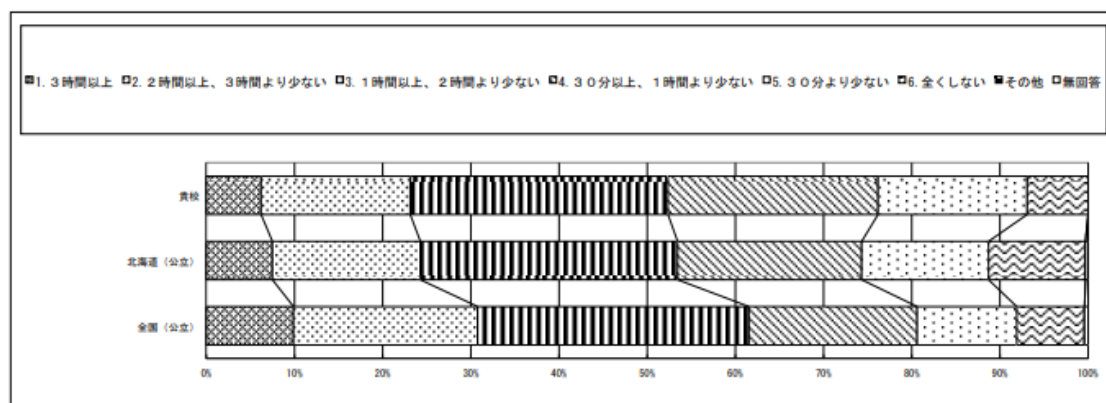
- ・学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができている



- ・将来の夢や目標をもっている
- ・1，2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日利用している

○肯定的な回答が全国平均より低い項目

- ・学校の授業時間以外に、普段、勉強時間が1日当たり1時間より多い



- ・自分にはよいところがあると思っている
- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる

○改善に向けた今後の主な取組

- ・生徒一人ひとりの学習の定着状況に応じて、家庭学習課題の内容や量を工夫し、必要に応じて補充的な学習や個別支援を行います。教職員全体で共通理解を図り、指導の質を高めていきます。家庭学習ノートの活用や確認を徹底していきます。
- ・生徒が日常的に安心して過ごせるよう、落ち着いた学校生活の取組（朝読書、3分前着席など）を継続し、信頼関係の構築を重視します。学級担任だけでなく、学年団・養護教諭・カウンセラー・管理職など複数の大人が関わる体制を明示し、生徒が相談しやすい雰囲気をつくり、心理的安全性の高い学校環境を整備していきます。

この調査は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証してその改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを、さらにそのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的としております。調査結果が、学力全体を特定するものではなく、学校における教育活動の一側面であることをご承知おき下さい。